米原市総合計画　第 4 回審議会「快適・協働」部会発言要旨

日時：平成 18 年 12 月 8 日(金)
9:30～11:30
場所：米原公民館 3A 会議室

1．課長あいさつ

2．資料説明及び審議

《将来人口について》

委　員：山東、近江は人口が増えると予想されている。米原は減少が予想されているが、今後は区画整理などにより増えると思う。

委　員：人口の転出を抑える工夫がいる。

委　員：どこへ転出したかは把握できるだろう。転出先が近隣市であり、マンション開発があったかどうかなどを調べれば、対応が考えられる。転出先がもっと遠方であれば食い止めることは難しい。

事務局：米原から近隣市へ転出するのと同じ理屈で湖北から米原へ転入している。ある程度の流れは止めようがない。少子化は人口流出を抑える効果があるかもしれない。

委　員：土地と生業が長子を引き留めるのは分かるが、小売業などは郊外型大型店などの進出で長子が跡を継がない傾向にある。第 2 子、第 3 子があったほうが商売が残る可能性が高い。

委　員：高校の選択など教育環境の影響が大きいのではないか。

委　員：一般的な町営住宅ではなくグレードの高い住宅（マンションタイプなど）を整備することで若年層の転入に成功した町がある。市として若者をどのように呼び込むかという姿勢が明確であれば転入してくる。

事務局：米原は若年ファミリーが多く、アパートに住んでいるが、子どもが大きくなると実家のある地域へ帰ってしまう。
若年層の定着方策としては家賃補助などが考えられる。

委　員：団塊の世代の受け入れも視野に入れるべきだ。U ターン人口の動向はどうなっているか。

事務局：U ターンはあると思うが調査していない。
南川住宅団地に対して団塊世代から問い合わせがあったので U ターンの傾向はあると思われる。

委　員：今長浜市になったが、浅井高原団地は当初まったく人気がなかったが、今は埋まっている。

委　員：土地が安いからだ。

事務局：大きな敷地（300～400 ㎡）も魅力の一つとなっている。ゆっくりのんびり暮らしたいというニーズがある。

委　員：コミュニティの濃さが転入の壁になっている。新興住宅団地だけで自治会をつくった方がうまくいく。

委　員：先祖代々の土地を守るという意識は薄れており、社会移動はやむを得ない。そもそも日本全体でも人口は減少するので米原のみ減少を止めることは難しい。

委　員：どういう人に来てもらいたいか。若い人なら安い賃料、団塊世代なら広い土地となるが米原はどちらも提供できるのではないか。

米原の売りは何か。他所から見れば自然と環境である。移住者の住まい方などのコメントなどを紹介して積極的に呼び込むべきだ。

高齢者を呼び込むには医療サービスの充実があればより確実だろう。

里山は魅力にならないか。

事務局：林業が廃っており、里山も使われていない。炭焼きの市民グループがある程度。

委　員：木質バイオなどの取り組みが全国的に行われている。米原市ではどうか。

人口については、滋賀県全体、彦根、長浜の動向をみることで戦略が見えてくるのではないか。ヤンマー中央研究所に勤務する人はどこに住んでいるのか。

事務局：米原市内には住んでいない。

既存集落内の空き家を転入者に提供することができれば効率的だ。ただし、地区のしきたりを守ってもらえるのか、自治会の不安もあると思う。

委　員：若い人が旧のコミュニティにはいるのは難しい。固まって新しいコミュニティを作ってもらう方がよい。

委　員：京都の町屋みたいにネーミングを工夫すると受け入れられるかもしれない。

委　員：U ターンはいいが、I ターン者はむずかしい。

フジテックから社宅をつくりたいという話があったが、結局、買い物、娯楽機能がないということで諦めた。

事務局：都市的な魅力が必要である。

委　員：仕方ないという考え方は何も生まない。住民を巻き込んで行動を起こすことが大切である。

事務局：現在、米原市は土地利用などの法的規制が３つの区域に分かれており、合併を機に一つにするよう県に求めている。

委　員：特区を使えばよい。

委　員：一旦土地利用計画を決めると変更できないのはどうにかならないか。見直しについて総合計画に書き込んで欲しい。

事務局：現在都市計画マスタープランを検討している。

委　員：長浜のキャノンの立地の時もいろいろな抵抗があったが、食い下がって突破した。理屈とがんばりと熱意があればなにごとも達成できる。

委　員：東海道新幹線が開業した際、駅のあるまちはほとんどが市になったのに米原だけ町のままだった。その経緯は今のまちづくりに生かせるのではないか。

委　員：財政的に厳しかったし、住民の盛り上がりも欠けていた。
今も三位一体改革で財政は厳しいが、住民を巻き込んで盛り上げてはどうか。

委　員：当時はきっちりした都市計画が無かったため、駅前の整備が進まず、パーキングばかりになり、地価だけ上昇した。

事務局：市街化区域面積が小さすぎて何もできなかった。大きく計画したくても補助金が認められなかった。

委　員：補助金頼みでは何もできない。

委　員：彦根、長浜を取り込むくらいの計画が必要だ。

委　員：米原は小さくまとまりすぎた。

委　員：新幹線等新駅をてこに駅周辺のまちづくりをして失敗している例が多く見られるが、米原は交通の好立地を生かしてなんとかできないか。大いなる田舎都市でもいい。

委　員：ミニ東京を造っては駄目だ。彦根、長浜は黒壁や４番町、キャッスルロードなどを売り物にしてがんばっている。それに比べ米原は大人しすぎる。交通の要衝におんぶにだっこではなく、アピールするまちづくりが必要だ。便利さも必要だが、他にないものを主張すべきだ。

《アンケートについて》

委　員：交通の不満度が高い割に重要度が低い。住民は市レベルの事業と国レベルの事業を区別しているのか。

委　員：不満は日々の暮らしに対して出やすい。重要度は年代によって異なり、子育て世代は教育に関心が高くなる。

委　員：国、県、JR などに対する不満だろう。

委　員：日常の不満と将来の重要度は違いが出るのは仕方ない。新エネルギーについても同様の傾向がある。

委　員：米原地区は交通のレベルはこの程度と思っているが、山東、伊吹は日常生活に照らして橋やトンネルのレベルで不満を訴えている。

委　員：若い年代と年配でも意見が違う。若い世代は遠くへの利便性、年配は近所への利便性

を求めている。

委　員：まちづくりへの参加意向は高齢者ほど低くなっている。

《環境について》

委　員：里山の維持管理は行政の音頭で始まったことであり、当面は行政主導で行うが、ずっとそのままなのか。

ゴミに関する住民の意識を高める必要がある。自発的に取り組んで貰う仕組みが必要だ。そのためにはやって楽しいと思われるようリードする必要がある。

委　員：全体で進めるのではなく、小さな単位で確実に進める方が効果があがる。

委　員：地域によって事情が異なるので小さな単位でそれぞれ対応するほうが理にかなっている。良かったことを教えあい、全体に広めていくとよい。

スローということばが流行っている。かっこいい、ブーム、を米原に結びつけると良いのではないか。

県の市の新エネルギービジョンに対するスタンスが違うのなら、市民を巻き込んで市のスタンスを示せば県の理解を得やすいのではないだろうか。

委　員：生ゴミを土に戻すという取り組みを市民グループで行っているが、その土を自分の家の畑や庭に使えると評判になっている。環境教育にも通じる。小さな取り組みであるが育てていきたい。

委　員：ゴミの有料化と合わせれば、生ゴミ処理は利点が多いと理解される。こういう発想が大切だ。

委　員：コストの問題も大切だが意識付けが重要だ。

委　員：義務感より楽しいという意識がないと続かない。達成感がたのしめるとか一寸した工夫が欲しい。

事務局：各自治会がやっている楽しい取り組みを全市に紹介してはどうか。

委　員：行政が広めて市民が取り組めばそれが協働になる。

委　員：旧米原町ではゴミ袋を配った。手間はかかるが意識は育った。

委　員：米原は有機野菜など自然や環境のすばらしさをアピールできる。

委　員：米原ならではの、という打ち出し方が大切だ。ホタルが飛び交う町の日本一○○な△□など、ブランドをつくりたい。

転勤族によって米原の米のおいしさが広まったという例がある。

また、立命館の学生が米原と大阪の水の味の違いを紹介していた例がある。

委　員：水がおいしいのは大きな魅力だ。ガソリンより高い水が売れる時代だ。

委　員：おいしいだけではインパクトが弱い。ホタルと連携してはどうか。

委　員：子どもから年寄りまで分かるものをシンボル化して皆で取り組むことが大切だ。

委　員：人と自然の共生がテーマだ。

事務局：ハリヨという魚は市全域に生息しており、水のきれいさの指標になっている。

委　員：醒井の梅花藻も使える。

３．その他

- 次回部会日程 12/26